

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年4月13日(2006.4.13)

【公表番号】特表2005-522457(P2005-522457A)

【公表日】平成17年7月28日(2005.7.28)

【年通号数】公開・登録公報2005-029

【出願番号】特願2003-570879(P2003-570879)

【国際特許分類】

**A 6 1 K 45/00 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/341 (2006.01)**  
**A 6 1 P 1/02 (2006.01)**  
**A 6 1 P 1/04 (2006.01)**  
**A 6 1 P 1/18 (2006.01)**  
**A 6 1 P 3/10 (2006.01)**  
**A 6 1 P 7/00 (2006.01)**  
**A 6 1 P 9/04 (2006.01)**  
**A 6 1 P 9/10 (2006.01)**  
**A 6 1 P 11/00 (2006.01)**  
**A 6 1 P 11/02 (2006.01)**  
**A 6 1 P 11/06 (2006.01)**  
**A 6 1 P 13/02 (2006.01)**  
**A 6 1 P 13/08 (2006.01)**  
**A 6 1 P 17/02 (2006.01)**  
**A 6 1 P 17/04 (2006.01)**  
**A 6 1 P 17/12 (2006.01)**  
**A 6 1 P 19/02 (2006.01)**  
**A 6 1 P 21/04 (2006.01)**  
**A 6 1 P 25/00 (2006.01)**  
**A 6 1 P 25/04 (2006.01)**  
**A 6 1 P 31/14 (2006.01)**  
**A 6 1 P 31/18 (2006.01)**  
**A 6 1 P 31/20 (2006.01)**  
**A 6 1 P 33/04 (2006.01)**  
**A 6 1 P 33/06 (2006.01)**  
**A 6 1 P 37/02 (2006.01)**  
**A 6 1 P 37/08 (2006.01)**

【F I】

**A 6 1 K 45/00**  
**A 6 1 K 31/341**  
**A 6 1 P 1/02**  
**A 6 1 P 1/04**  
**A 6 1 P 1/18**  
**A 6 1 P 3/10**  
**A 6 1 P 7/00**  
**A 6 1 P 9/04**  
**A 6 1 P 9/10**  
**A 6 1 P 11/00**  
**A 6 1 P 11/02**  
**A 6 1 P 11/06**

A 6 1 P 13/02  
A 6 1 P 13/08  
A 6 1 P 17/02  
A 6 1 P 17/04  
A 6 1 P 17/12  
A 6 1 P 19/02  
A 6 1 P 21/04  
A 6 1 P 25/00  
A 6 1 P 25/04  
A 6 1 P 31/14  
A 6 1 P 31/18  
A 6 1 P 31/20  
A 6 1 P 33/04  
A 6 1 P 33/06  
A 6 1 P 37/02  
A 6 1 P 37/08

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月23日(2006.2.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

脊椎動物の脳ムスカリン性レセプターを活性化させることを含む、炎症性サイトカインカスケードにより媒介される疾患の危険性にあるか、または該疾患を有する脊椎動物においてプロ炎症性サイトカインの放出を阻害する方法における使用のための医薬の調製のための、ムスカリン性アゴニストの使用。

【請求項2】

プロ炎症性サイトカインが、腫瘍壊死因子(TNF)、インターロイキン(IL)-1、IL-1、IL-6、IL-18、HMG-B1、MIP-1、MIP-1、MIF、インターフェロン、およびPAFからなる群より選ばれる請求項1記載の使用。

【請求項3】

プロ炎症性サイトカインがTNFである請求項1記載の使用。

【請求項4】

脊椎動物がヒトである請求項1記載の使用。

【請求項5】

疾患が、虫垂炎、消化性潰瘍、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、腹膜炎、膵炎、炎症性腸疾患、憩室炎、喉頭蓋炎、噴門痙攣、胆管炎、胆嚢炎、肝炎、腸炎、ウィップル病、喘息、アレルギー、アナフィラキシーショック、免疫複合体病、器官虚血、再灌流傷害、器官壊死、枯草熱、セブシス、敗血症、内毒素性ショック、悪液質、異常高熱症、好酸球性肉芽腫、肉芽腫症、サルコイドーシス、敗血性流産、精巣上体炎、膣炎、前立腺炎、尿道炎、気管支炎、気腫、鼻炎、嚢胞性線維症、肺炎、肺限外顕微鏡的間質性肺炎、肺胞炎、細気管支炎、咽頭炎、胸膜炎、副鼻腔炎、インフルエンザ、呼吸器合胞体ウイルス感染、疱疹感染、HIV感染、B型肝炎ウイルス感染、C型肝炎ウイルス感染、播種性菌血症、デング熱、カンジダ症、マラリア、フィラリア症、アメーバ症、包虫、火傷、皮膚炎、皮膚筋炎、日光皮膚炎、じんま疹、いぼ、膨疹、血管炎、脈管炎、心内膜炎、動脈炎、アテローム性動脈硬化症、血栓静脈炎、心外膜炎、心筋炎、心筋虚血、結節性動脈周囲炎、リウマチ熱、

腹腔疾患、うっ血性心不全、成人呼吸促進症候群、髄膜炎、脳炎、多発性硬化症、脳梗塞、脳卒中、ギラン-バレー症候群、神経炎、神経痛、脊椎損傷、麻痺、ブドウ膜炎、関節炎、関節痛、骨髄炎、筋膜炎、パジエット病、痛風、歯周病、滑膜炎、重症筋無力症、甲状腺炎、全身性エリテマトーデス、グッドパスチャー症候群、ベーチェット症候群、同種移植拒絶、移植片対宿主病、I型糖尿病、強直性脊椎炎、バージャー病、ライター症候群、およびホジキン病からなる群より選ばれる請求項1記載の使用。

【請求項6】

炎症性腸疾患が、潰瘍性大腸炎、偽膜性大腸炎、急性大腸炎、虚血性大腸炎、およびクローン病からなる群より選ばれる請求項5記載の使用。

【請求項7】

関節炎がリウマチ様関節炎である請求項5記載の使用。

【請求項8】

疾患が、同種移植拒絶、関節炎、喘息、狼瘡、成人呼吸促進症候群、膵炎、腹膜炎、火傷、ベーチェット病、移植片対宿主病、炎症性腸疾患、多発性硬化症、器官虚血、再灌流傷害、心筋虚血、および悪液質からなる群より選ばれる請求項1記載の使用。

【請求項9】

疾患がショック、慢性閉塞性肺疾患、または乾癬である請求項1記載の使用。

【請求項10】

疾患がセブシスである請求項1記載の使用。

【請求項11】

脳ムスカリン性レセプターがM1、M2、およびM4レセプターからなる群より選ばれる請求項1記載の使用。

【請求項12】

ムスカリン性アゴニストが脊椎動物の脳に直接投与される請求項1記載の使用。

【請求項13】

ムスカリン性アゴニストが脊椎動物の血液脳関門を通過することができ、該アゴニストが経腸的もしくは非経口的に投与されるか、または脊椎動物の血流に注射される請求項1記載の使用。

【請求項14】

ムスカリン性アゴニストがムスカリン、McN-A-343、およびMT-3からなる群より選ばれる請求項1記載の使用。

【請求項15】

脊椎動物の脳ムスカリン性レセプターを活性化することを含む、心筋細胞アポトーシスの危険性がある脊椎動物において心筋細胞のアポトーシスを阻害する方法における使用のための医薬の調製のための、ムスカリン性アゴニストの使用。

【請求項16】

(a) 感覚刺激と脳ムスカリン性レセプターの活性化との間に関連性が作られるのに十分な期間、脊椎動物の脳ムスカリン性レセプターを活性化し、かつ脊椎動物に感覚刺激を提供すること；および

(b) プロ炎症性サイトカイン放出が感覚刺激のみにより阻害されるように関連性を十分に増強するのに十分な間隔および期間、工程(a)を繰り返すこと、を含む、感覚刺激を受ける際にプロ炎症性サイトカインの放出が阻害されるように脊椎動物を条件付ける方法における使用のための医薬の調製のための、ムスカリン性アゴニストの使用。

